



せとまちだより

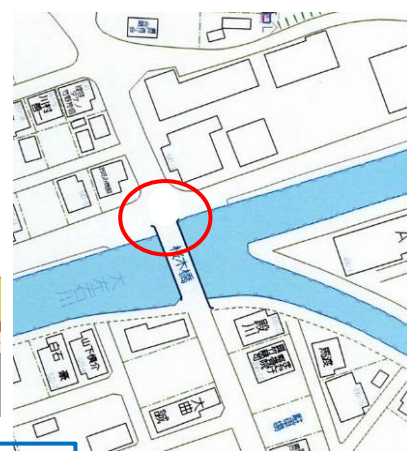
SETOMACHI-COMMUNITY NO39

令和5年2月22日(水)
瀬戸地域まちづくり協議会
彦根市芦辺町箱崎大左右舥924
080-8574-5853
発行責任者
町田 正一



桜木橋先の「交差点」安全確認をお願いします！

1月の交差点での事故後、瀬戸小学校・幼稚園の保護者から通学路の安全について、心配する声があがっています。交差点が近くなったら、どの方向からも減速して安全を確認し、運転しましょう。朝は、通学、放課後は遊びに行く子どもたちが、交差点を通過しています。安全運転にご協力をお願いします。



大手携帯電話会社の社員等をかたる不審電話に注意！

長崎県警察本部生活安全企画課発行「もってこいネットワーク通信」より

県内で「大手携帯電話会社の社員等をかたる不審電話」が多発しています。

その内容は

- ① 自宅の固定電話に大手携帯電話会社を装い自動音声ガイダンスで
 - ・ ●●会社（大手携帯電話会社名）です。
 - ・ お客様の電話番号は、本日をもってご利用停止となります。
 - ・ ご相談したい方は「1」を押してください。などのアナウンスが流れる。
- ② 「1」を押すと相手につながり
 - ・ あなたの住所、氏名、生年月日、携帯番号を教えてください。
 - ・ 調査した結果、個人情報全てが暴力団に漏れています。
 - ・ 後ほど警察から電話があると思いますので対応してください。などと言われる。

というものです。

これは、大手携帯電話会社や警察などのかたって、最終的に「逮捕される。」などと不安をまき、その解決金名目で金銭をだまし取る手口に発展する可能性があります。

相手が携帯電話会社等を名乗った場合でも、一度電話を切り、最寄りの警察署に相談しましょう！



家族を装った電話をかけて被害者を信用させ「会社のお金に手をつけたのがバレてクビになるかも・・・」と恐怖心を煽り、現金を支払えば解放されると思わせるのがオレオレ詐欺の基本的な流れです。 **皆さんだまされないように注意しましょう！！**

歌集「山もも」 町田典子 から抜粋
鯉魚の船団組みて漁場へと朝の大きを震はせて発つ
出漁のエンジン音に一日が始まる町に吾は住みなり
大数の網船帰るあと追ひて海鳥さわぐ 大漁らしき

少式太鼓に挑戦

瀬戸小学校6年生による「少式太鼓」の練習が昨年、11月に始まり、講師を迎えての練習3回と自主練習を数回重ねて、1月26日昼休み時間を利用して、全校児童と6年生の保護者を前に成果発表の演奏がありました。練習では顔を上げて演奏することができませんでしたが、回を重ねるごとに動きが出て、顔も徐々に上がるようになりました。発表当日は、力強い太鼓やかね・竹の音が合わさり、最高の出来栄でした。今年は、是非、子どもたちの少式太鼓の音が聞けるように瀬戸まつりが開催されることを祈っています。



昭和二十八年下久巾着満了記念写真

先ノ川〇 〇船全員 船頭 西口長二
馬渡末義

写真の裏に記載
〇は字不明



今西博氏提供

この写真は、昭和28年 いわし刺網漁 下久水産：巾着網 乗組員全員の記念写真です

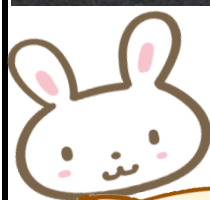
いわし刺網漁

「和船による漁業は大正元年から昭和5年ごろまで続いたが、全盛期は大正の中期から末期ともいわれている。網元の持船もあったが、大半の網元は、薩摩さいつ、天草、江の浦、豊後方面から船を借りて、いわし刺網漁を営んでいた。それらの船は3本マストで今でいえば15トンくらいであったろう。全盛期には、120隻はいたといわれている。」（中略）



大村富美氏提供

「昭和32年ころになると、壱岐周辺での漁期を終えてから（4月の初め）石川県での操業が始まった。2か月間操業して、6月初めに操業を切り上げ帰路についた。33年の3月ごろには、南下するいわしを追って上五島まで下って行き、青方港を基地にして半月ほど操業したこともあった。（途中省略）不漁が重なり、昭和35年を最後に、戦後、十数年続いた、いわし刺網漁業も経営を断念せざるを得なかったのである。こうして大正元年から始まり、一時中断（戦争）されたとはいえ瀬戸浦伝統のいわし網が姿を消すこととなった。」（瀬戸浦史参照）



↑ 木のトロ箱に入ったいわし
巾着船の停泊地まへの岡棚（先の川か？）→
竹を縄で括り合わせて作られている

としやんの
ひとりごつ

箱崎本村触の鬼尻づくり工房平尾さんの裏山に、「小山弥兵衛」の墓があります。弥兵衛は兵庫県朝来市和田山町東河地区の出身で、江戸時代中期の人です。元文3年、生野銀山で有名な生野で一揆があり、その首謀者の一人として、壱岐に流されてきました。本村の暦応寺や中山の見性寺に預けられ生活をしていたわけですが、文字を教えたり、植林をしたり人の役に立つことをしたので、地域の人から慕われていました。この、弥兵衛さんの縁で平成27年に朝来市と壱岐市は友好都市となりました。私は、交流事業で、何度も朝来市を訪れています。朝来市には、日本のマチュピチュと言われ、雲海で有名な竹田城址があります。向側の山（立雲峡）から雲海に囲まれた城址を見たくてツアーに参加しましたが、登山道入口からヒイヒイ息は上がったまま、おまけに、この日は期待外れの雲海でした。早朝、まだ暗い4時出発やったとに残念！！ 朝来市とは、20年ほどのお付き合いになりますが「平尾明文さんと原田さんは何を言っているか少しも分からへん」という人がいます。私は、普通に話しているつもりですが・・・壱州便じゃのうし瀬戸便で話ちよるとやろうか？



雲海に浮かぶ竹田城址